

京滋の主要電子部品 5 社の 10 年 3 月期結果と 11 年 3 月期予想

京滋に本社を置く 3 月期決算の主要電子部品 5 社の 10 年 3 月期は、合計で売上高が 09 年 3 月期比 4.8%減、税引前純利益(ロームは経常利益)が同 173.6%増となった。特に第 4 四半期(10 年 1~3 月)には売上高が前年同期比 37.5%増、税引前純損益は約 815 億円の黒字(前年同期は約 1,302 億円の赤字)で、各社とも業績回復感が強まったかたち。11 年 3 月期は、5 社合計の売上高が前期比 10.9%増、税引前純利益は同 85.4%増で、全て 2 ケタ以上の増益予想となっている。

日本電産(6594)

10 年 3 月期は、売上高は過去ピークの約 81%のレベルながら「WPR プロジェクト」の効果もあって税引前純利益が過去最高を更新。今期も 2 ケタ増収増益で過去最高益更新見通し。

オムロン(6645)

前 3 月期は 2 ケタ売上減となったが、徹底した収益対策で税引前損益が黒字回復。今期は設備投資の緩やかな回復による FA 用制御機器需要拡大が見込まれ、大幅増益の見込み。

ローム(6963)

10 年 3 月期は集積回路部門の伸びで増収となったものの為替差損発生で経常 6.8%減益に。今期は集積回路部門に加えディスプレイ部門の拡大が見込まれ、増収、大幅増益見通し。

京セラ(6971)

前 3 月期は円高の影響などから減収となったが、部品事業および機器事業の収益性改善で増益に。今期は産業機械や自動車関連市場での生産活動回復などを背景に 2 ケタ増収、大幅増益へ。

村田製作所(6981)

10 年 3 月期は、圧電製品や通信モジュールなどの好調によって増収、黒字回復。今期も携帯電話市場やパソコン市場での部品需要の盛り上がりなどを背景に、2 ケタ増収増益の見込み。

会社名	コード	決算期	売上高(増減率)	税引前純利益(増減率)	税引前純益率	1株益	1株配
日本電産	6594	09.3	610,803 (15.7)	47,270 (26.2)	7.7	197.4	60.0
		10.3	587,459 (3.8)	75,002 (+58.7)	12.8	373.0	65.0
		11.3予	660,000 (+12.3)	95,000 (+26.7)	14.4	452.3	80.0
オムロン	6645	09.3	627,190 (17.8)	39,133 64,166	-	132.2	25.0
		10.3	524,694 (16.3)	10,195 -	1.9	16.0	17.0
		11.3予	580,000 (+10.5)	33,000 (+223.7)	5.7	90.9	10+未定
ローム	6963	09.3	317,140 (15.1)	18,544 (70.5)	5.8	89.8	130.0
		10.3	335,640 (+5.8)	17,284 (6.8)	5.1	65.1	130.0
		11.3予	354,000 (+5.5)	41,000 (+137.2)	11.6	228.2	130.0
京セラ	6971	09.3	1,128,586 (12.5)	55,982 (68.0)	5.0	157.3	120.0
		10.3	1,073,805 (4.9)	60,798 (+8.6)	5.7	218.5	120.0
		11.3予	1,200,000 (+11.8)	132,000 (+117.1)	11.0	463.2	120.0
村田製	6981	09.3	523,946 (17.1)	10,319 121,830	-	16.5	100.0
		10.3	530,819 (+1.3)	34,658 -	6.5	115.4	70.0
		11.3予	590,000 (+11.1)	66,000 (+90.4)	11.2	205.0	100.0

(11.3 予は会社側発表値。単位は百万円、%、円。 は赤字。増減率内の は前期の黒字額)

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。